

自衛隊、初の緊急出動

日本のNGO救出

トラック強奪され要請

【ゴマ(ザイル)3日 午前九時前(日本時間同日
植村隆、飯島武彦)三日 午後四時前)、ザイル・

ゴマのキャンプ難民キャンプで、日本の非政府組織(NGO)のアジア医師連絡協議会(AMDA本部・岡山市)が借り上げているトラックがルワンダ難民に強奪された。乗っていた日本人三人を含むスタッフ十人は、防疫活動中だった陸上自衛隊ルワンダ難民救援隊員五人に救援を要請。約二十七キロ離れた自衛隊の宿営地から自動小銃を持った二十二人が車両四台で緊急出動し、AMD Aのスタッフをゴマ市内の宿舎まで送り届けた。自衛隊の難民キ

ャンプへの緊急出動は初。ルワンダ難民救援の実施計画では、宿営地外での警備や邦人の救出は任務に入っておらず論議を呼びそらだ。AMD Aや同救援隊によると、AMD Aのトラックは、キャンプ・キャンプ内の群衆に取り囲まれ、立ち往生した。荷台に乗っていた鎌田裕十朗医師(三〇)、小林直樹看護士(三〇)、平野恭助コーディネーター(三〇)ら十人は危険を感じ車を降りた。難民はキーを奪い、十数人が乗って、北の方向に逃げたという。

鎌田医師らは同キャンプの近くにシラミ駆除の薬剤を運んで来た自衛隊員に救助を求めるとともに、キャンプ内の国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)の現地事務所を避難した。

シラミ駆除の自衛隊員から連絡を受けた自衛隊は十時二十三分、宿営地から防弾チョッキを着て鉄のヘルメットをかぶった警備隊員ら二十二人が大形四輪駆動車に乗って緊急出動した。AMD Aのスタッフを乗せた自衛隊車両は正午前、ゴマ市内に戻った。

神本光伸隊長は「車を取られた人に乗せて帰ることは任務内の輸送に当たる。実施計画上の問題というよりも、日本人が危ない状態にないかどうか人道上の観点から状況確認に行った。関係者が無事ではっきりしている」と話していた。

キャンプ・キャンプでは、二日未明、ルワンダ愛国戦線に協力したとの疑いで、フツ族難民四人が殺される事件があり、難民の間で緊張が高まっている。